「福、笑い」の食味評価・品種特性

1 「福、笑い」の食味評価

香りが高く、ふんわり柔らかく炊きあがる「福、笑い」は、
コシヒカリ以上に粘りがあり、もっちりとした食感と甘味が特徴です。

消費者等の評価

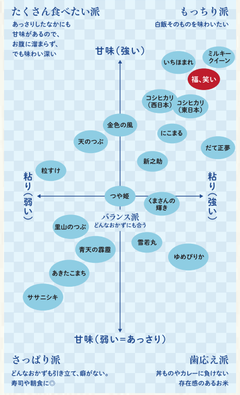
県内及び首都圏の百貨店、高級スーパー、米穀店等で
販売され、高い評価をいただいています。

- 「福、笑い」の食味について、9割超の消費者から「かなり良い」、「良い」との評価を得ました（右下図）。

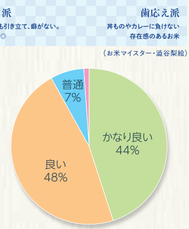
【消費者の声】
「米だけで十分美味しい（50代女性）」
「ちょっと贅沢したいときに食べたい（30代男性）」

- タイアップした料亭や旅館の料理人等からは「トップブランドに相応しい食味」と高い評価を得ました。
- 縁起の良い名前やパッケージのデザインも好評で、贈答用にも使われています。

■「福、笑い」のポジション



（お米マイスター・遠谷梨絵）



先行販売における消費者の食味評価
（回答数1046）

2 育成経過と品種特性

品質と食味が優れる品種の開発を目指し、コシヒカリの系統とひとめぼれの系統を交配し、14年の年月をかけて育成した品種です。

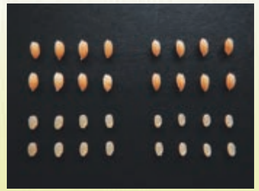
〔品種特性〕

- コシヒカリ並の熟期で、草丈が短く、草型は中間型の品種です。

特性／品種名	福笑い	コシヒカリ
出穂期（月日）	8月8日	8月6日
成熟期（月日）	9月29日	9月27日
稈長（cm）	77	90
穂長（cm）	19.9	19.1
穂数（本／㎡）	436	412
耐倒伏性	やや強	弱
耐冷性（障害型）	中	強
穂発芽性	難	難
葉いもち	中	弱
穂いもち	中	弱
収量	65.9	62.9
玄米千粒重	24.2	22.4
玄米品質（1-9）	4.5	5.1
味度値	88.2	84.4

※県農業総合センター本部（郡山市）でのデータ（平成30年度普及に移しうる成果）
※2014～2018年の平均値（基肥窒素0.5kg/a+追肥窒素0.2kg/a、玄米は1.8mmで調製）

成熟期の姿



籾と玄米
（左:福笑い、右:コシヒカリ）

「福、笑い」の生産要件・栽培のポイント

1 生産要件

「福、笑い」は、認証GAPを取得した生産者で構成された認定・登録研究会のみが栽培でき、生産物にも厳しい基準を設け、食味・品質にこだわったお米として生産します。

認定・登録要件　【県・集荷団体等で構成する「福島県オリジナル米生産販売推進本部」が認定・登録】

- GAP認証を取得した複数生産者（3戸以上）により研究会が構成されていること。
- ブランド化戦略に協力すること。
- 栽培マニュアルや食味・品質基準の遵守等を研究会の定款や規約に定め、実行すること。

調製基準　調製ふるい目　1.9mm以上

食味・品質基準　玄米タンパク質　6.4%以下（水分15%換算）

（遵守事項）
- ☑ 栽培マニュアルに沿った栽培
- ☑ 研修会への参加
- ☑ 種子・苗の譲渡や自家採種はしない
- ☑ 全量を出荷契約を締結した集荷事業者へ出荷（ふるい下も含む）
- ☑ 配分作付面積に沿った適切な栽培

※「福、笑い」の栽培に必要な研究会の認定・登録の申請は、作付の前年度に受け付けます。
　申請時期や認定・登録要件等の詳細は、県水田畑作課のホームページを御確認いただくか、お電話等でお問い合わせください。

2 栽培のポイント

「福、笑い」栽培暦を基本として、以下の点に注意すること。

土づくり、生育診断による適正量の追肥

- 登熟期間中に葉色が急に退色しないように、土づくり・追肥を実施する。
- ただし、追肥は幼穂形成期（出穂前25日頃）とし、必ず、葉色（SPAD値等）を確認して施肥量を判断する（追肥N量は2kg/10a以内）。

栽植密度

- 穂数不足につながるので、疎植は行わない。

※目安　中通り・会津　条間　30cm×株間　18～22cm
　　浜通り　条間　30cm×株間　18cm

胴割粒発生軽減対策

- **刈遅れの防止**
  刈遅れは胴割粒の発生等による品質低下の大きな原因となるため、出穂後積算気温1,200℃までに刈取を行う。また、達観による籾黄化率（85%以上）判定、籾水分の調査を実施して刈取時期を判断する。
- **乾燥・調製**
  収穫後の乾燥・調製について、乾燥速度の目安は毎時0.8%とし、二段乾燥を行う。

令和4年産　生産者向けパンフレット

日本一の米をつくりたい。

米どころ、ふくしまの想いをのせて。
14年もの月日をかけてたどりついた
「かおり、あまみ、ふくよかさ」。
選ばれた作り手だけが
育てることができる、
はじめての美味しさ。

福、笑い

ふくしまから

「福、笑い」の位置付け

- 「福、笑い」は福島県の清らかな水、恵まれた気候風土のもと、生産者が磨き上げた技術と米づくりへのこだわり、開発者の情熱を結集したプレミアムなお米として生産・販売していきます。令和3年から「福、笑い」の本格的な生産が開始されました。
- 研究会登録制により生産者を限定し、生産量を絞って、高価格帯で販売することにより、本県のトップブランド米として、県産米全体のイメージアップ、販売シェア拡大及び販売価格の引き上げの契機となり、結果として稲作農家の所得向上に繋げていきたいと考えています。
- 「福、笑い」栽培暦を基本に、技術研鑽に努め、トップブランド米にふさわしい高品質・良食味な「福、笑い」を生産しましょう。

令和4年3月
福島県

問い合わせ　水田畑作課（電話024-521-7360）
又は各農林事務所（農業振興普及部・農業普及所）

福島県オリジナル水稲品種「福、笑い」栽培暦

栽培基準 会津地方

●栽培地帯：会津地方の平坦地域（標高300m以下）　美味しい米づくりには適切な施肥と収穫・乾燥・調製が重要！

食味・品質基準
玄米タンパク質含有率：6.4%（水分15%換算）以下
調製基準：1.9mm

福島県農林水産部
水田畑作課

4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月	
上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬

生育

移植期（コシヒカリに比べ、苗の丈はやや短く、葉色は同程度）
分げつ期（葉色はひとめぼれとコシヒカリの中間）
幼穂形成期
減数分裂期
出穂期（8/4頃（農業総合センター会津地域研究所の場合）コシヒカリより2日程度遅い）
成熟期（稈長はコシヒカリより短い、穂は止葉に隠れる成熟期頃の穂軸は、半分程度が黄化する）

主な作業

塩水選 浸種 催芽
播種
育苗管理
田植え
耕起
代かき
除草剤散布
土壌改良資材 基肥施用
箱施薬散布（殺虫・殺菌）
穂いもち防除
穂肥（7/15頃（出穂25日前頃）（農業総合センター会津地域研究所の場合））
カメムシ防除
※時期等は栽培上の要点を参照
収穫 乾燥 調製

【栽培のポイント】
・基肥窒素を制限し、葉色に応じて穂肥を適正に施用することで、籾数の適正化を図り、高品質、良食味を確保する。

〈〈水管理〉〉
活着まで深水 → 浅水管理で分げつ促進 → 中干し → 間断かんがい（低温時深水管理） → 出穂期花水 → 間断かんがい → 落水は出穂後30日頃

【品種の特徴】
コシヒカリと比較して
・収量、品質やや優る。
・玄米千粒重大きい 。
・耐倒伏性優る。
・白未熟粒の発生が少ない。
・味度値が高い。

栽培上の要点

●土づくり
・堆肥や土壌改良資材を適切に施用し、地力の向上に努める。
・鶏糞等の窒素成分量の多い有機質資材を施用する場合は、施用量に十分注意するとともに、必要に応じて基肥を減肥する。

●種子予措
・必ず塩水選（比重1.13）を実施する。
・種子消毒は薬剤により実施する。
・水温を確認して、十分に浸種を行う。

●移植
・栽植密度は畦間30cm×株間18～22cm（坪50～60株）とする。
・風のない暖かい日に移植する。
・活着までは深水管理とし、活着したら浅水管理により有効茎の確保に努める。
田植え適期：5月中旬
（登熟歩合の低下を避けるため、遅い移植はしない）

●病害虫・雑草防除
・「福島県農作物病害虫防除指針」に基づき、防除する。

☆施肥体系　食味向上のための施肥管理
①窒素施肥量
基肥4kg/10a＋穂肥2kg/10aを基本とする。
・肥料の銘柄は地域慣行に準ずる。
・基肥一発肥料は使用しない。
②穂肥は幼穂形成期（出穂前25日頃）に施用する。
穂肥の実施は、必ず葉色（SPAD値等）を確認して判断する。
③遅い穂肥は玄米タンパク質含有率が高まる原因となるので、絶対に行わない。

●中干し
・有効分げつ（≒穂数）確保後に速やかに実施する。小さなひび割れができる程度に田面を固める。
〈茎数の目安〉　60株/坪の場合　約20～22本/株
50株/坪の場合　約24～26本/株
・幼穂形成期までには、中干しを終了する。

●低温時の水管理
・幼穂形成期以降に低温が予想される場合は、速やかに深水管理し幼穂の保温に努める。

●出穂期以降の水管理
・高温時は、「飽水管理」や「昼間湛水、夜間落水」といった水管理を行う。
・落水は出穂30日後を目安とし、早期落水はしない。

●カメムシ防除
・畦畔の草刈り
出穂10日前までに実施する（周囲に出穂の早い品種がある場合はそれに合わせる）。
出穂後は草刈りを行わない。

〈農薬による防除の例〉
・粉剤、液剤（散布剤）による防除
1回目：出穂期の7～10日後頃
2回目：その7日後に散布
・粒剤による防除
穂揃期～出穂期10日後頃に湛水状態で散布する。その後も発生が多い場合は、散布剤により追加防除を行う。

●刈取り適期
・籾の黄化率を必ず確認して、刈取りの判断を行う。
黄化率85%以上を目安とする。
・刈取り時期の積算気温の目安…1000～1200℃
・刈取り適期に達した後は、速やかに刈り取る。

☆生育指標（会津地方）

時期	項目	指標値
成熟期	玄米タンパク質（%）	6.4以下
	籾数（万粒／㎡）	3.0～3.2
	登熟歩合（%）	90以上
	収量（kg/10a）	600～660
	穂数（本／㎡）	350～400
幼穂形成期	葉色（SPAD502値）	35～38
	茎数（本／㎡）	500～550
	草丈（cm）	70以下

●乾燥・調製
・急激な乾燥や過乾燥、高水分籾の乾燥などを避ける。
・選別機の篩い目は、1.9mmで調製する。

随時生育調査や栽培に関する聞き取りをさせていただくことがあります。
ご理解とご協力をよろしくお願いします。

栽培に関する問い合わせ・相談先
会津農林事務所農業振興普及部（TEL 0242-29-5306）　喜多方農業普及所（TEL 0241-24-5744）　会津坂下農業普及所（TEL 0242-83-2113）

福島県オリジナル水稲品種「福、笑い」栽培暦

栽培基準 中通り

●栽培地帯：中通りの平坦地域（標高300m以下）　美味しい米づくりには適切な施肥と収穫・乾燥・調製が重要！

食味・品質基準
玄米タンパク質含有率：6.4%（水分15%換算）以下
調製基準：1.9mm

福島県農林水産部
水田畑作課

4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月	
上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬

生育

移植期（コシヒカリに比べ、苗の丈はやや短く、葉色は同程度）
分げつ期（葉色はひとめぼれとコシヒカリの中間）
幼穂形成期
減数分裂期
出穂期（8/13頃（農業総合センター本部の場合）コシヒカリより2日程度遅い）
成熟期（稈長はコシヒカリより短い、穂は止葉に隠れる成熟期頃の穂軸は、半分程度が黄化する）

主な作業

塩水選 浸種 催芽
播種
育苗管理
田植え
耕起
代かき
除草剤散布
土壌改良資材 基肥施用
箱施薬散布（殺虫・殺菌）
穂いもち防除
穂肥（7/19頃（出穂25日前頃）（農業総合センター本部の場合））
カメムシ防除
※時期等は栽培上の要点を参照
収穫 乾燥 調製

【栽培のポイント】
・基肥窒素を制限し、葉色に応じて穂肥を適正に施用することで、籾数の適正化を図り、高品質、良食味を確保する。

〈〈水管理〉〉
活着まで深水 → 浅水管理で分げつ促進 → 中干し → 間断かんがい（低温時深水管理） → 出穂期花水 → 間断かんがい → 落水は出穂後30日頃

【品種の特徴】
コシヒカリと比較して
・収量、品質やや優る。
・玄米千粒重大きい 。
・耐倒伏性優る。
・白未熟粒の発生が少ない。
・味度値が高い。

栽培上の要点

●土づくり
・堆肥や土壌改良資材を適切に施用し、地力の向上に努める。
・鶏糞等の窒素成分量の多い有機質資材を施用する場合は、施用量に十分注意するとともに、必要に応じて基肥を減肥する。

●種子予措
・必ず塩水選（比重1.13）を実施する。
・種子消毒は薬剤により実施する。
・水温を確認して、十分に浸種を行う。

●移植
・栽植密度は畦間30cm×株間18～22cm（坪50～60株）とする。
・風のない暖かい日に移植する。
・活着までは深水管理とし、活着したら浅水管理により有効茎の確保に努める。
田植え適期：5月中旬
（登熟歩合の低下を避けるため、遅い移植はしない）

●病害虫・雑草防除
・「福島県農作物病害虫防除指針」に基づき、防除する。

☆施肥体系　食味向上のための施肥管理
①窒素施肥量
基肥4kg/10a＋穂肥2kg/10aを基本とする。
・肥料の銘柄は地域慣行に準ずる。
・基肥一発肥料は使用しない。
②穂肥は幼穂形成期（出穂前25日頃）に施用する。
穂肥の実施は、必ず葉色（SPAD値等）を確認して判断する。
③遅い穂肥は玄米タンパク質含有率が高まる原因となるので、絶対に行わない。

●中干し
・有効分げつ（≒穂数）確保後に速やかに実施する。小さなひび割れができる程度に田面を固める。
〈茎数の目安〉　60株/坪の場合　約20～22本/株
50株/坪の場合　約24～26本/株
・幼穂形成期までには、中干しを終了する。

●低温時の水管理
・幼穂形成期以降に低温が予想される場合は、速やかに深水管理し幼穂の保温に努める。

●出穂期以降の水管理
・高温時は、「飽水管理」や「昼間湛水、夜間落水」といった水管理を行う。
・落水は出穂30日後を目安とし、早期落水はしない。

●カメムシ防除
・畦畔の草刈り
出穂10日前までに実施する（周囲に出穂の早い品種がある場合はそれに合わせる）。
出穂後は草刈りを行わない。

〈農薬による防除の例〉
・粉剤、液剤（散布剤）による防除
1回目：出穂期の7～10日後頃
2回目：その7日後に散布
・粒剤による防除
穂揃期～出穂期10日後頃に湛水状態で散布する。その後も発生が多い場合は、散布剤により追加防除を行う。

●刈取り適期
・籾の黄化率を必ず確認して、刈取りの判断を行う。
黄化率85%以上を目安とする。
・刈取り時期の積算気温の目安…1050～1200℃
・刈取り適期に達した後は、速やかに刈り取る。

☆生育指標（中通り）

時期	項目	指標値
成熟期	玄米タンパク質（%）	6.4以下
	籾数（万粒／㎡）	2.8～3.0
	登熟歩合（%）	85以上
	収量（kg/10a）	550～600
	穂数（本／㎡）	350～400
幼穂形成期	葉色（SPAD502値）	35以下
	茎数（本／㎡）	500～550
	草丈（cm）	70以下

●乾燥・調製
・急激な乾燥や過乾燥、高水分籾の乾燥などを避ける。
・選別機の篩い目は、1.9mmで調製する。

随時生育調査や栽培に関する聞き取りをさせていただくことがあります。
ご理解とご協力をよろしくお願いします。

栽培に関する問い合わせ・相談先
県北農林事務所農業振興普及部（TEL 024-521-2608）　伊達農業普及所（TEL 024-575-3181）　安達農業普及所（TEL 0243-22-1127）
県中農林事務所農業振興普及部（TEL 024-935-1310）　須賀川農業普及所（TEL 0248-75-2180）　県南農林事務所農業振興普及部（TEL 0248-23-1562）

福島県オリジナル水稲品種「福、笑い」栽培暦

栽培基準 浜通り

●栽培地帯：浜通りの平坦地域（標高300m以下）　美味しい米づくりには適切な施肥と収穫・乾燥・調製が重要！

食味・品質基準
玄米タンパク質含有率：6.4%（水分15%換算）以下
調製基準：1.9mm

福島県農林水産部
水田畑作課

4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月	
上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬

生育

移植期（コシヒカリに比べ、苗の丈はやや短く、葉色は同程度）
分げつ期（葉色はひとめぼれとコシヒカリの中間）
幼穂形成期
減数分裂期
出穂期（8/13頃（農業総合センター浜地域研究所の場合）コシヒカリより3日程度遅い）
成熟期（稈長はコシヒカリより短い、穂は止葉に隠れる成熟期頃の穂軸は、半分程度が黄化する）

主な作業

塩水選 浸種 催芽
播種
育苗管理
田植え
耕起
代かき
除草剤散布
土壌改良資材 基肥施用
箱施薬散布（殺虫・殺菌）
穂いもち防除
穂肥（7/19頃（出穂25日前頃）（農業総合センター浜地域研究所の場合））
カメムシ防除
※時期等は栽培上の要点を参照
収穫 乾燥 調製

【栽培のポイント】
・基肥窒素を制限し、葉色に応じて穂肥を適正に施用することで、籾数の適正化を図り、高品質、良食味を確保する。

〈〈水管理〉〉
活着まで深水 → 浅水管理で分げつ促進 → 中干し → 間断かんがい（低温時深水管理） → 出穂期花水 → 間断かんがい → 落水は出穂後30日頃

【品種の特徴】
コシヒカリと比較して
・収量、品質やや優る。
・玄米千粒重大きい 。
・耐倒伏性優る。
・白未熟粒の発生が少ない。
・味度値が高い。

栽培上の要点

●土づくり
・堆肥や土壌改良資材を適切に施用し、地力の向上に努める。
・鶏糞等の窒素成分量の多い有機質資材を施用する場合は、施用量に十分注意するとともに、必要に応じて基肥を減肥する。

●種子予措
・必ず塩水選（比重1.13）を実施する。
・種子消毒は薬剤により実施する。
・水温を確認して、十分に浸種を行う。

●移植
・栽植密度は畦間30cm×株間18cm（坪60株）とする。
・風のない暖かい日に移植する。
・活着までは深水管理とし、活着したら浅水管理により有効茎の確保に努める。
田植え適期：5月中旬
（登熟歩合の低下を避けるため、遅い移植はしない）

●病害虫・雑草防除
・「福島県農作物病害虫防除指針」に基づき、防除する。

☆施肥体系　食味向上のための施肥管理
①窒素施肥量
基肥4kg/10a＋穂肥2kg/10aを基本とする。
・肥料の銘柄は地域慣行に準ずる。
・基肥一発肥料は使用しない。
②穂肥は幼穂形成期（出穂前25日頃）に施用する。
穂肥の実施は、必ず葉色（SPAD値等）を確認して判断する。
③遅い穂肥は玄米タンパク質含有率が高まる原因となるので、絶対に行わない。

●中干し
・有効分げつ（≒穂数）確保後に速やかに実施する。小さなひび割れができる程度に田面を固める。
〈茎数の目安〉　60株/坪の場合　約20～23本/株
・幼穂形成期までには、中干しを終了する。

●低温時の水管理
・幼穂形成期以降に低温が予想される場合は、速やかに深水管理し幼穂の保温に努める。

●出穂期以降の水管理
・高温時は、「飽水管理」や「昼間湛水、夜間落水」といった水管理を行う。
・落水は出穂30日後を目安とし、早期落水はしない。

●カメムシ防除
・畦畔の草刈り
出穂10日前までに実施する（周囲に出穂の早い品種がある場合はそれに合わせる）。
出穂後は草刈りを行わない。

〈農薬による防除の例〉
・粉剤、液剤（散布剤）による防除
1回目：出穂期の7～10日後頃
2回目：その7日後に散布
・粒剤による防除
穂揃期～出穂期10日後頃に湛水状態で散布する。その後も発生が多い場合は、散布剤により追加防除を行う。

●刈取り適期
・籾の黄化率を必ず確認して、刈取りの判断を行う。
黄化率85%以上を目安とする。
・刈取り時期の積算気温の目安…1100～1200℃
・刈取り適期に達した後は、速やかに刈り取る。

☆生育指標（浜通り）

時期	項目	指標値
成熟期	玄米タンパク質（%）	6.4以下
	籾数（万粒／㎡）	2.8～3.0
	登熟歩合（%）	85以上
	収量（kg/10a）	500～550
	穂数（本／㎡）	370～410
幼穂形成期	葉色（SPAD502値）	33以下
	茎数（本／㎡）	520～570
	草丈（cm）	70以下

●乾燥・調製
・急激な乾燥や過乾燥、高水分籾の乾燥などを避ける。
・選別機の篩い目は、1.9mmで調製する。

随時生育調査や栽培に関する聞き取りをさせていただくことがあります。
ご理解とご協力をよろしくお願いします。

栽培に関する問い合わせ・相談先
相双農林事務所農業振興普及部（TEL 0244-26-1151）　双葉農業普及所（TEL 0240-23-6473）　いわき農林事務所農業振興普及部（TEL 0246-24-6161）